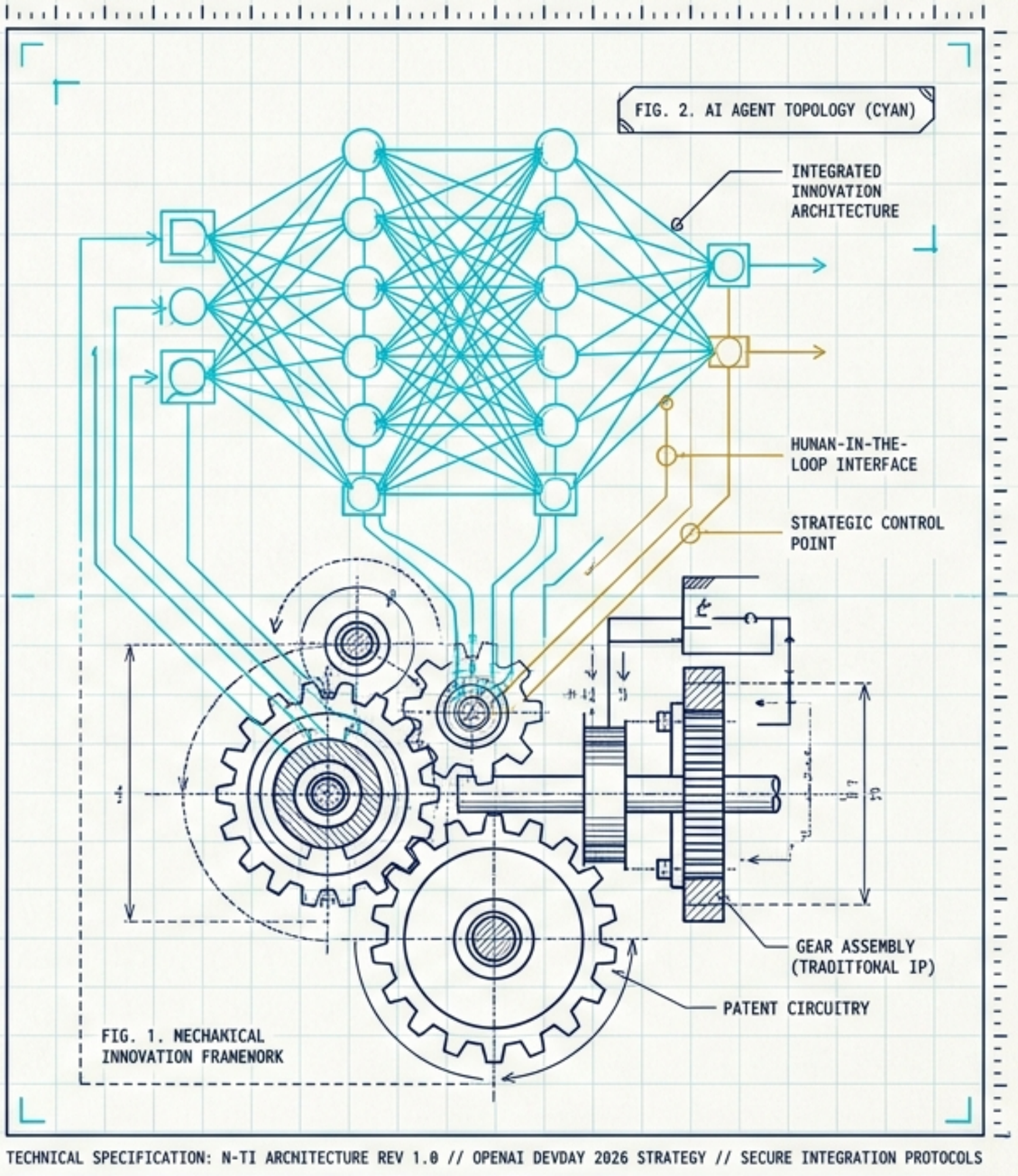
次世代知財アーキテクトの設計図

OpenAI DevDay 2026がもたらす構造的変革

AIエージェント時代における技術革新と知財実務の再定義

対象領域：特許調査・明細書作成・中間処理・知財戦略ガバナンス



Gemini Notebook

EVOLUTION OF INTELLECTUAL PROPERTY ORGANIZATION

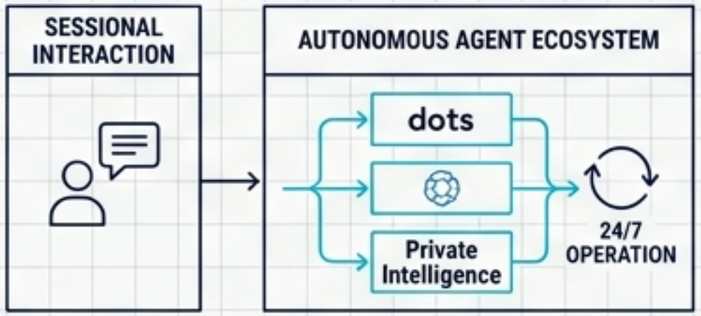
知財組織は「受動的ツールの利用」から「自律型エージェントの統制」へ移行する。

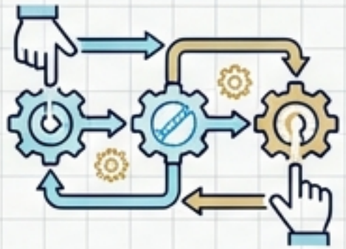


Shift 1: Technology (基盤進化)

単一セッションの対話から、24時間常時稼働する自律エージェント基盤「dots」と機密保護インフラ「Private Intelligence」への移行。

AUTONOMOUS AGENT INFRASTRUCTURE
SECURE DATA FRAMEWORK

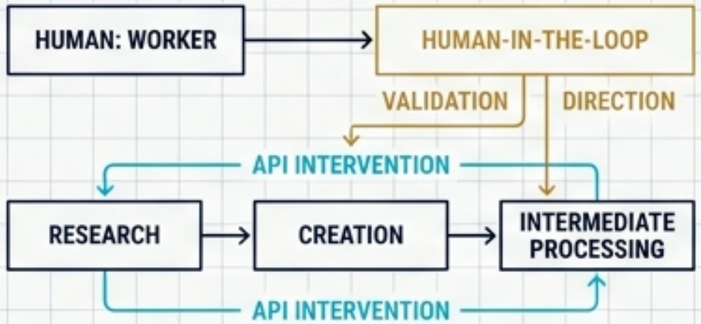




Shift 2: Workflow (実務変革)

調査・作成・中間処理の全フェーズにAPIが直接介入。人間は「作業者」から、出力の検証と方向付けを担う「Human-in-the-Loop」へ。

HUMAN VALIDATION & OVERSIGHT

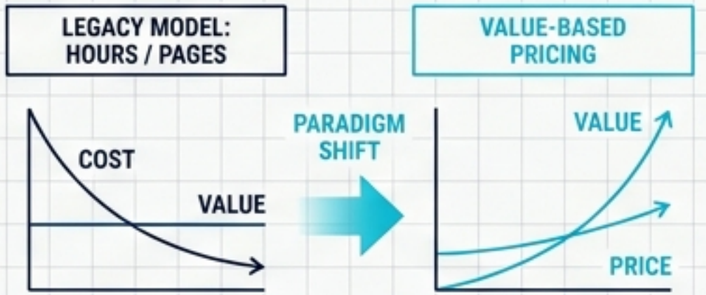




Shift 3: Business (収益構造)

AIによる作成コストの暴落 (GPT-6.1 Sol) に伴い、工数・ページ数課金から「価値基準課金 (Value-based Pricing)」へのパラダイムシフトが不可避に。

VALUE-METRIC BILLING PARADIGM



Gemini Notebook

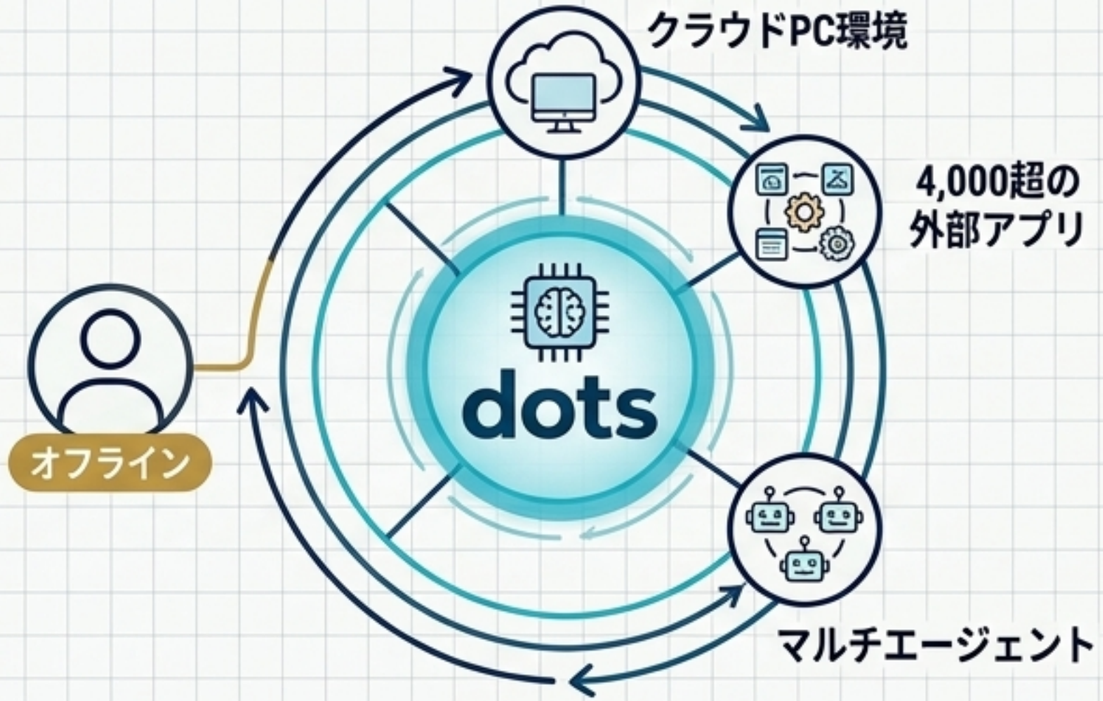
チャットAIから「24時間稼働のデジタル協働者」へのパラダイムシフト。

DevDay 2026の中核メッセージ：人間と自律エージェントが協働する共通プラットフォームへの昇華

Before 2026: 単発セッション型



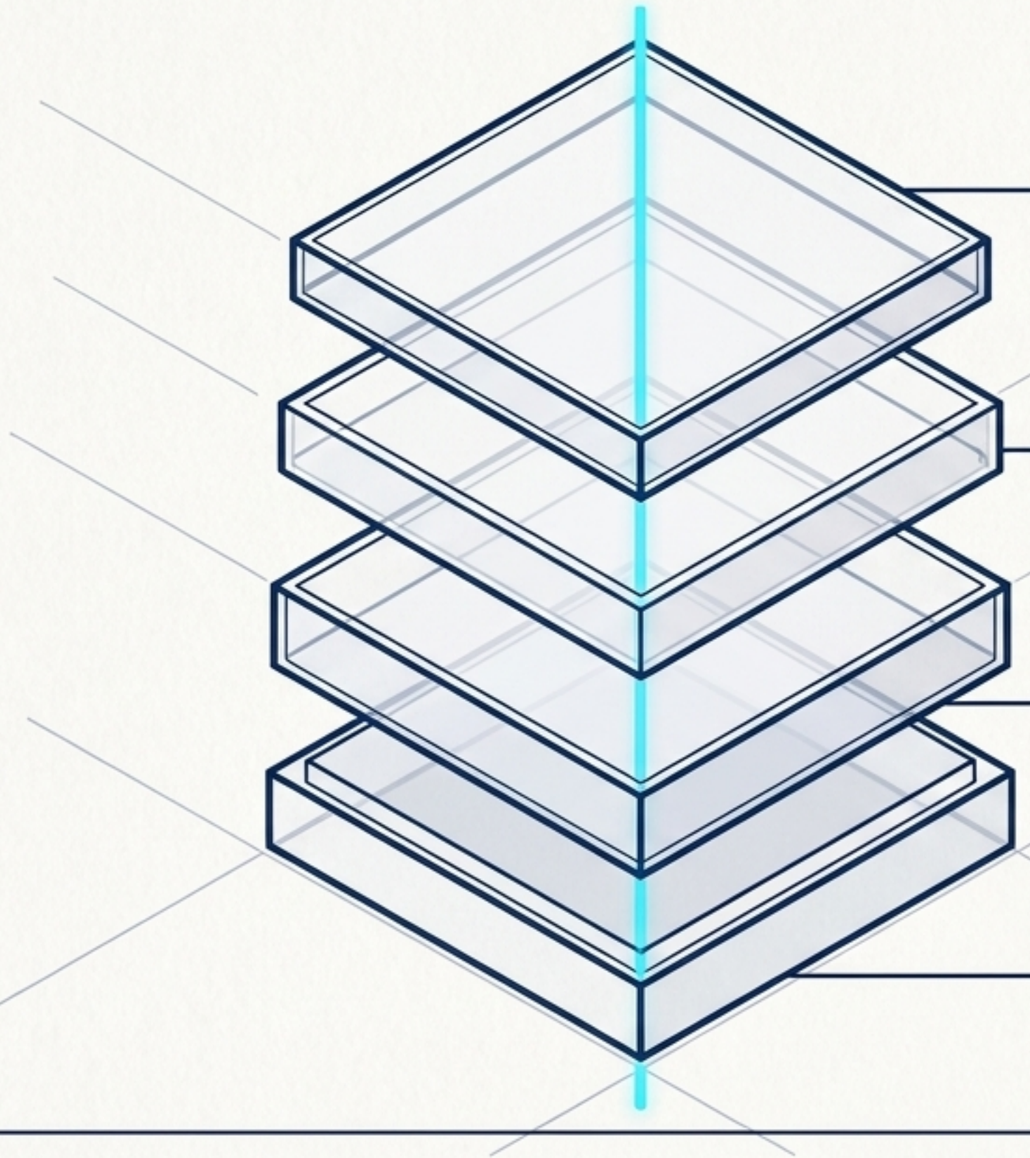
After DevDay 2026: 常時自律稼働型



- dots: クラウド上の専用サンドボックスで24時間自律稼働するエージェント基盤
- GPT-6 Astraの推論知能による長期コンテキスト保持と目標志向型タスク連鎖

Gemini Notebook

知財業務を根底から再構築する、次世代AIの4層ケイパビリティ・スタック。



Layer 4: 協働インターフェース層

`ChatGPT Space / Pages`

人間とAIの共同編集キャンバス

Layer 3: 自律エージェント・API層

`dots / Agents API (Computer Use) / Decisions API`

GUI操作代行と高速ルーティング

Layer 2: 推論モデル層

`GPT-6.1 Sol / Ultrafast ティア`

Astra比でトークン価格1/5。キャッシュ読込は$0.10/1Mで95%削減。最大300 tokens/秒。

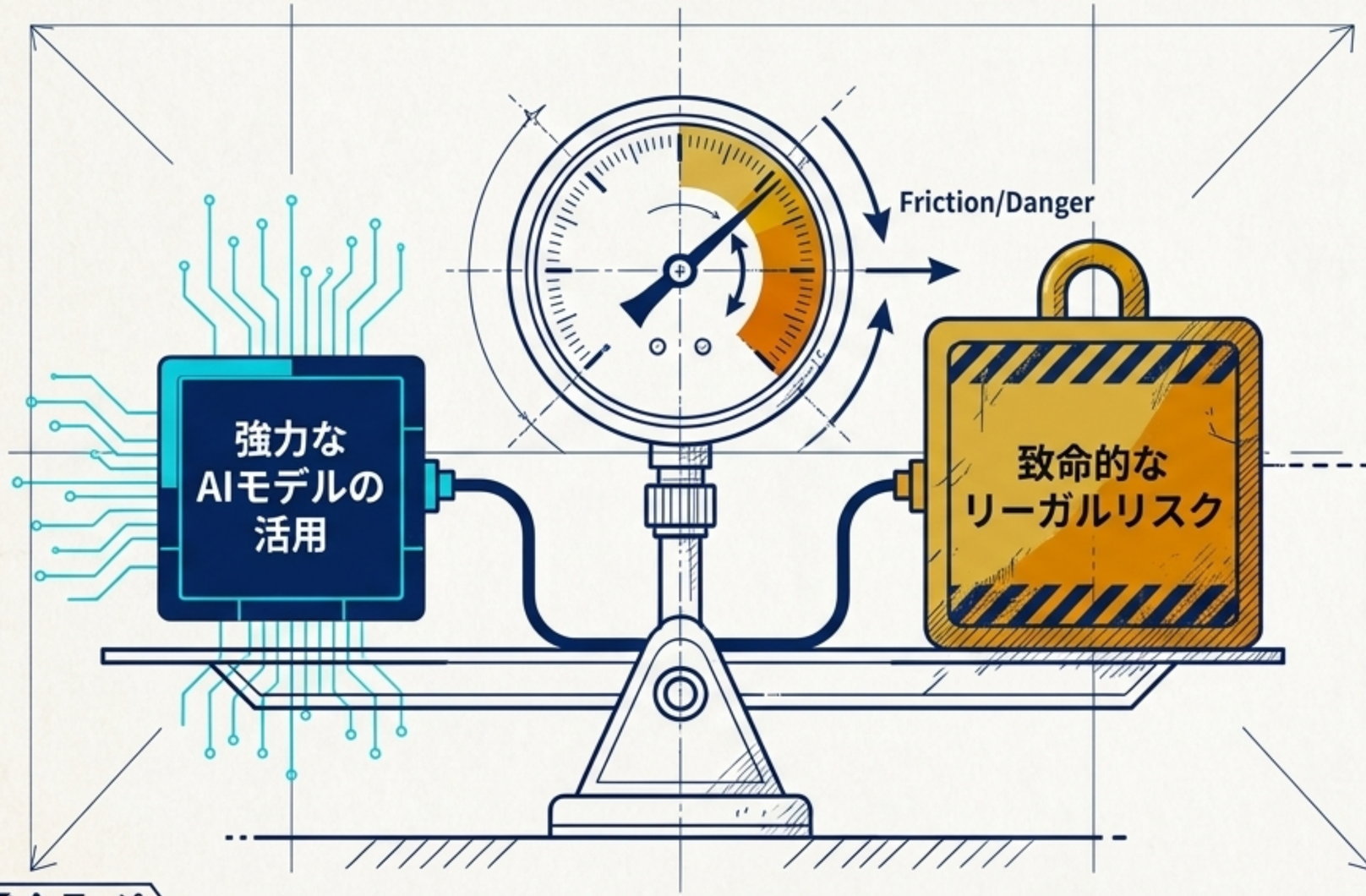
Layer 1: インフラ・セキュリティ層

`Private Intelligence / Bedrock Managed Agents`

ZDRと暗号学的隔離による機密保持

Gemini Notebook

生成AIの知財適用を阻んできた最大の壁は「新規性喪失」と「営業秘密漏洩」である。



特許法上のリスク

出願前の未公開発明を第三者サーバーへ送信することによる新規性喪失（特許法第29条第1項）

営業秘密のリスク

企業のコア技術の漏洩リスク（不正競争防止法第2条第6項）

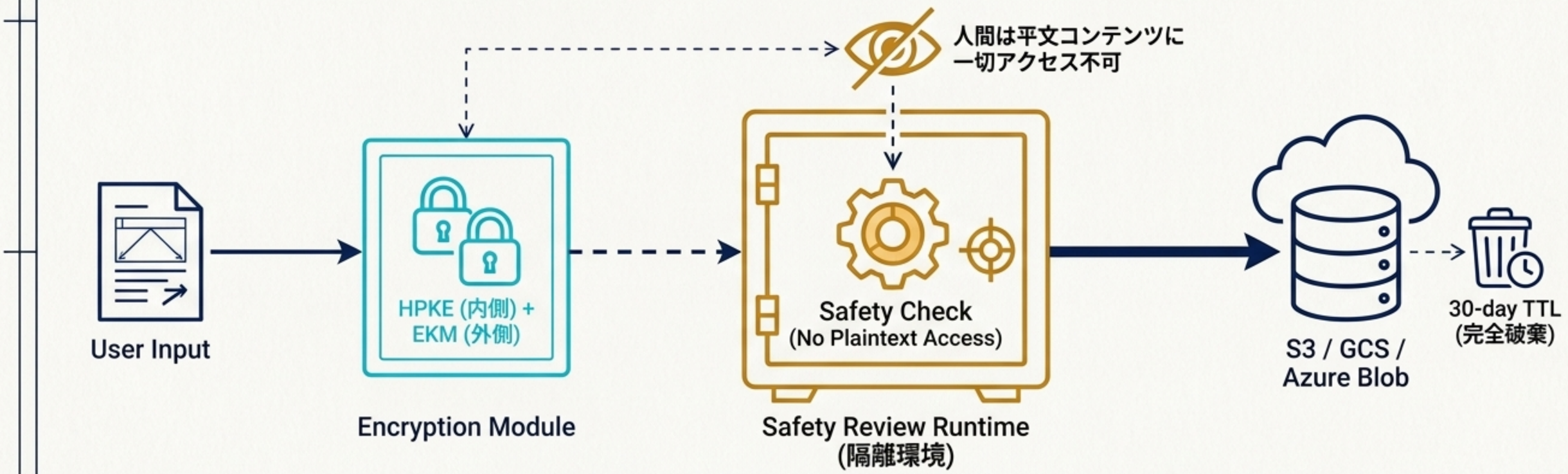
専門家倫理の制約

弁理士業務AI利活用ガイドライン（2025年4月）における守秘義務違反への警告（弁理士法第29条）

構造的対立: 顧客の機密保持要件 vs AIプロバイダーの安全監視要件

Gemini Notebook

Zero Data Retention (ZDR) アーキテクチャが、平文データを残さず完全な機密性を担保する。



二重暗号化

OpenAI管理のHPKE（内側）+ 顧客管理のEKM（外側）による強力な保護。

Safety Review Runtime

ハードウェアレベルで隔離された審査環境。人間は平文コンテンツに一切アクセス不可。

顧客管理ストレージ

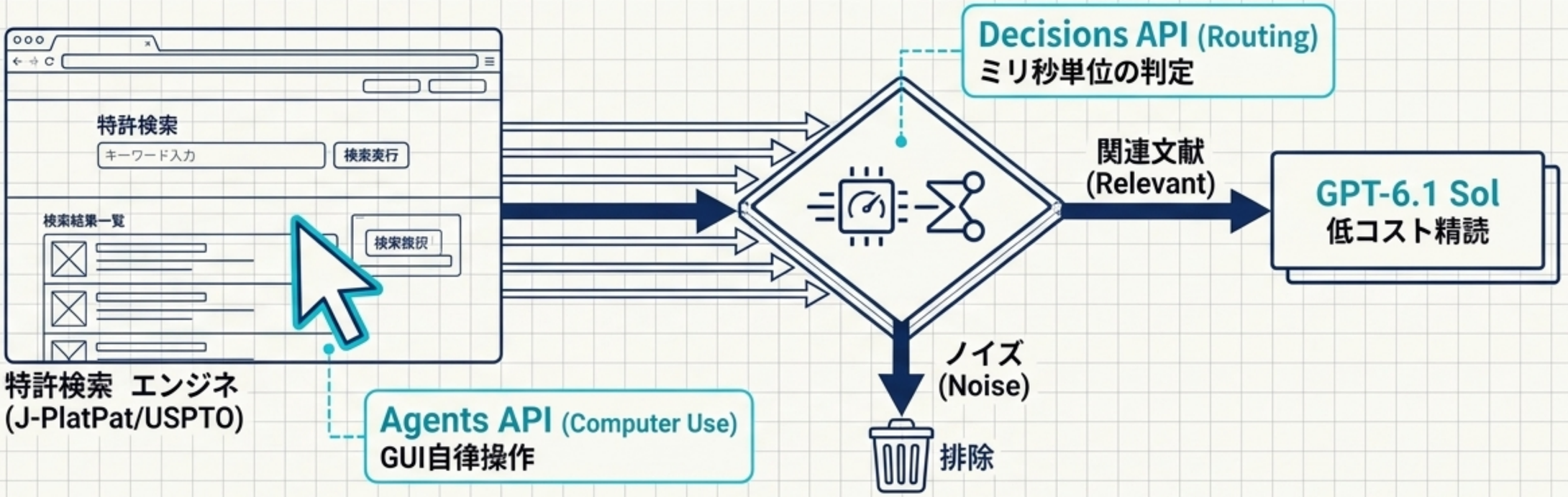
入出力ログはOpenAI側ではなく、顧客の S3 / Azure Blob / GCS へ直接転送。

完全破棄

30日の TTL（Time To Live）経過後に自動破棄。モデル再学習への利用は完全排除。

Gemini Notebook

【フェーズ1：調査】Agents APIと超高速推論が、特許公報のスクリーニングを完全自動化する。



GUI自律操作

Agents API（Computer Use）がクラウドブラウザ上で画面を認識。J-PlatPat等の複雑なUIを人間と同様に操作代行。

ミリ秒単位の判定

Decisions API が数千件の特許文献と本願構成要件の一致・不一致を超高速でルーティングし、ノイズを排除。

低コスト精読

絞り込まれた文献群を GPT-6.1 Sol で精読。キャッシュ入力コストの95%削減が大量反復読込を合理化。

必須の統制点　引用文献の存在や法的ステータスに関するハルシネーション（虚偽捏造）の人間による検証。

Gemini Notebook

【フェーズ2：明細書作成】ChatGPT Spaceによる共同編集が、発明概念を即座に構造化する。

協働プラットフォーム

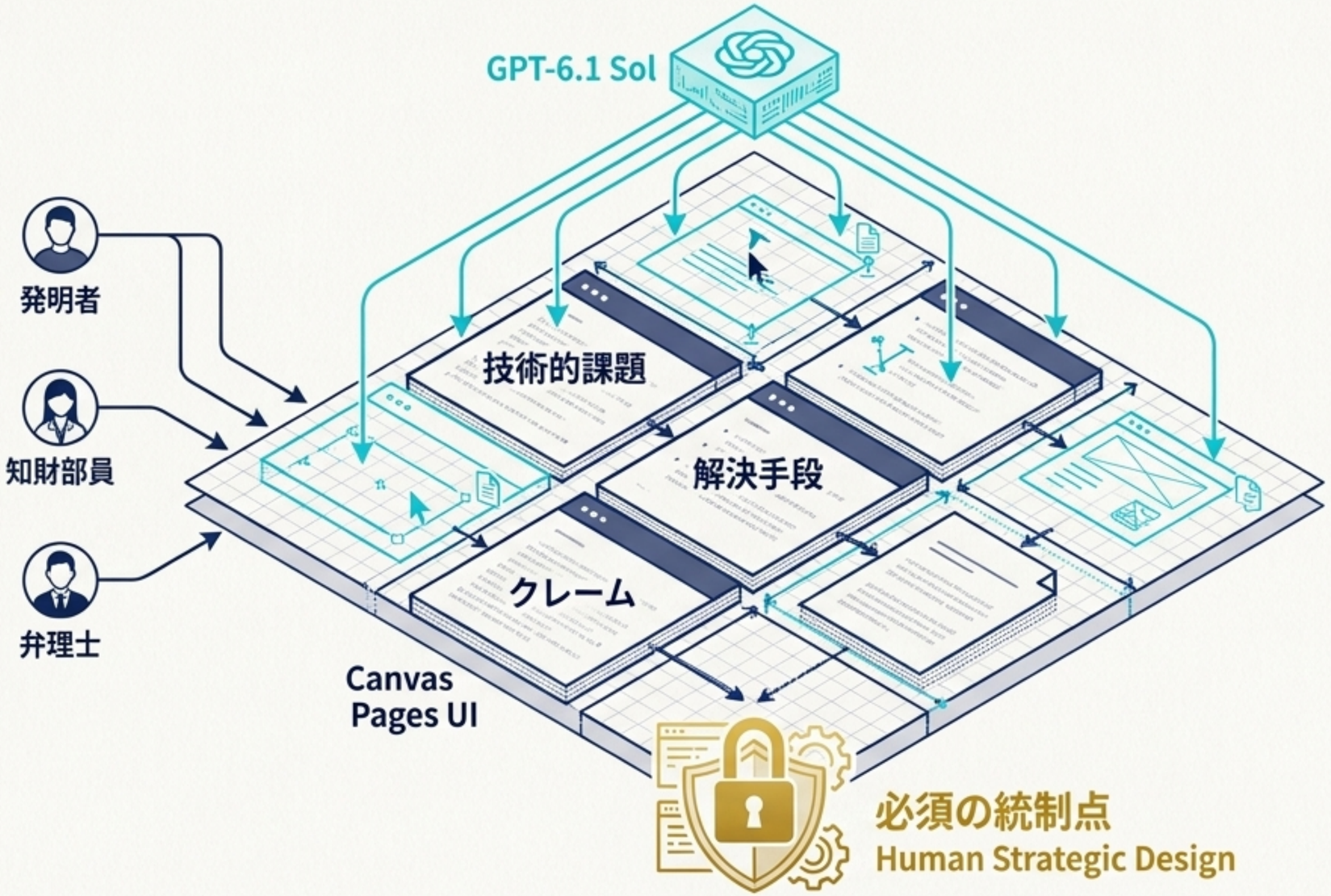
発明提案書を Space に投入し、
技術的課題・解決手段・必須構成要件
を自動分解。

構造化とバリエーション

Codex Cloudの開発環境再現能力を
応用。実施の形態のバリエーション、
代替構成を自動補完し、サポート要件
を満たすドラフトを生成。

必須の統制点

エージェントによる「クレームの過度
な狭窄化」の防止と、強い権利範囲を
確保するための設計（Design）。

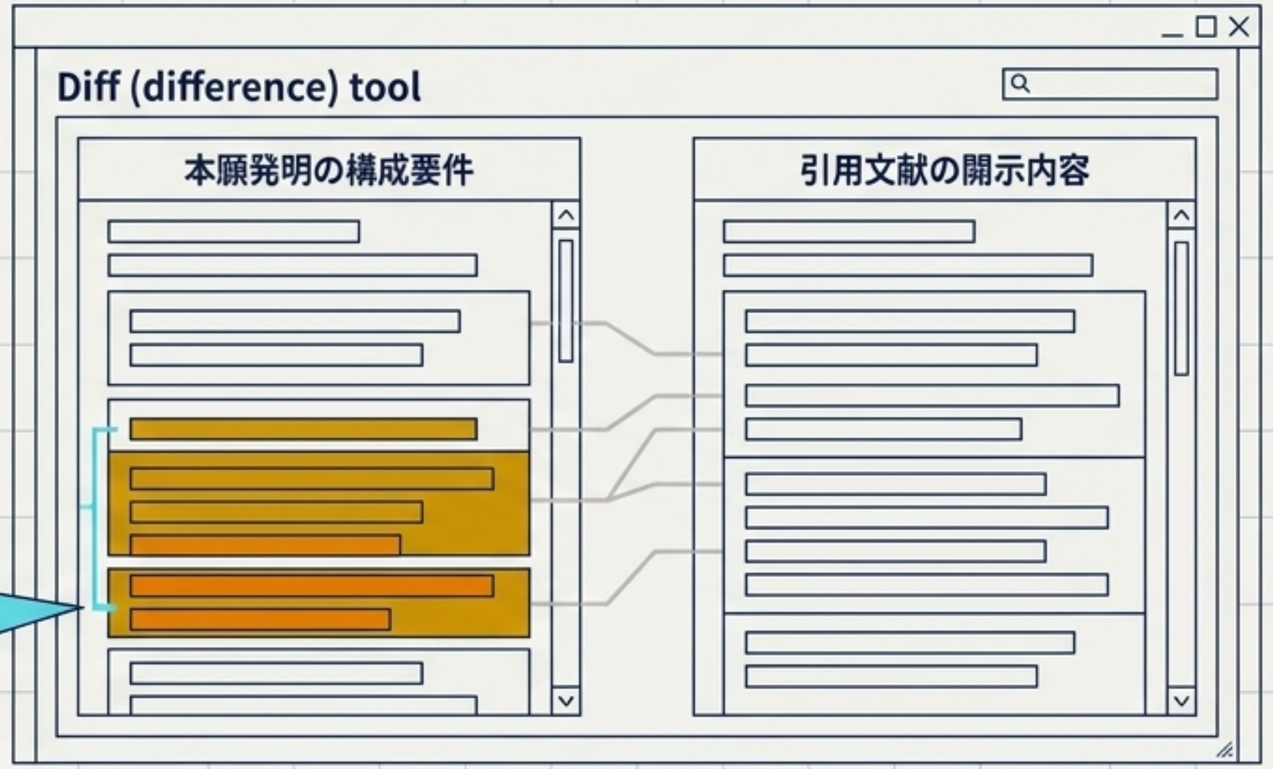


Gemini Notebook

【フェーズ3：中間処理】コード差分解析の思想が、精緻な拒絶理由対比マトリクスを生成する。

Codex Code Reviewの応用

本願発明と審査官提示の引例を精密に対比し、構成上の差異点を抽出。



差異点と顕著な効果の自動抽出

反論骨子の自動立案

進歩性や新規性欠如に対する反論ロジックと、引例回避のための限定補正案を複数パターン提示。

必須の統制点

特許庁の審査基準（単なるAI適用の進歩性否定等）に沿った、論理構築の人間による最終担保。

Gemini Notebook

【フェーズ4：監視】dotsとMCP Eventsの連携が、知財ポートフォリオ監視をリアルタイム化する。

能動的リアルタイム監視

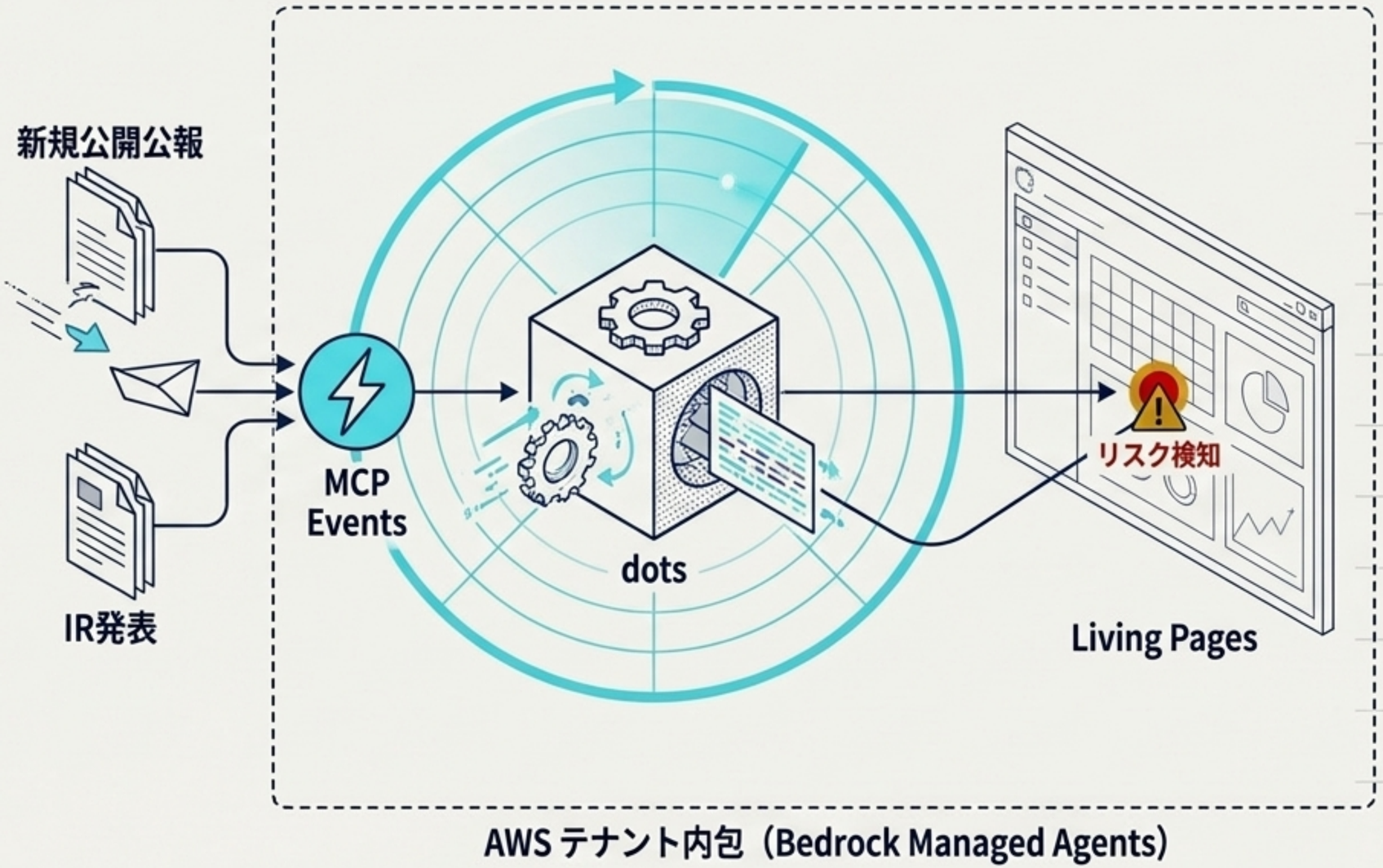
競合の技術開示をイベントとして検知し、自社特許網との重複度や侵害リスクを dots がバックグラウンドで常時解析。

自動ダッシュボード更新

解析結果は社内Space上のLiving Pagesに自動反映され、侵害の予兆を即時把握。

Bedrock Managed Agents

監視プロセス自体を顧客のAWSテナント内で完結させ、高度な機密性を維持。



Gemini Notebook

知財ライフサイクル全域におけるAIエージェントと「人間の必須統制点」の境界線。

	[従来の実務]	[AIが代行する自律領域]	[Human-in-the-Loop (人間の必須統制)]
先行技術調査 Prior Art	手動DB検索	Agents APIによる 画面巡回・超高速判定	ハルシネーション （虚偽公報）の最終確認
明細書作成 Drafting	白紙からの起案	Spaceでの自動要件抽出 ・ドラフト生成	発明者適格性の維持・ 強い権利範囲の設計
中間処理 Office Action	手作業での 対比表作成	Codex差分解析による 反論骨子作成	審査基準に基づく 論理の妥当性検証
競合監視 Monitoring	月次の公報 PDF確認	dots+MCP Eventsによる 常時重複解析	権限逸脱の防止・ 外部誤送信制御

Gemini Notebook

AIは発明者たり得ない。
自然人による「着想への重大な貢献」が特許の有効性を左右する。

Thaler v. Vidal判決

AIシステムを発明者として指定することは
法的に不可（自然人のみ）。

USPTO改定ガイダンス

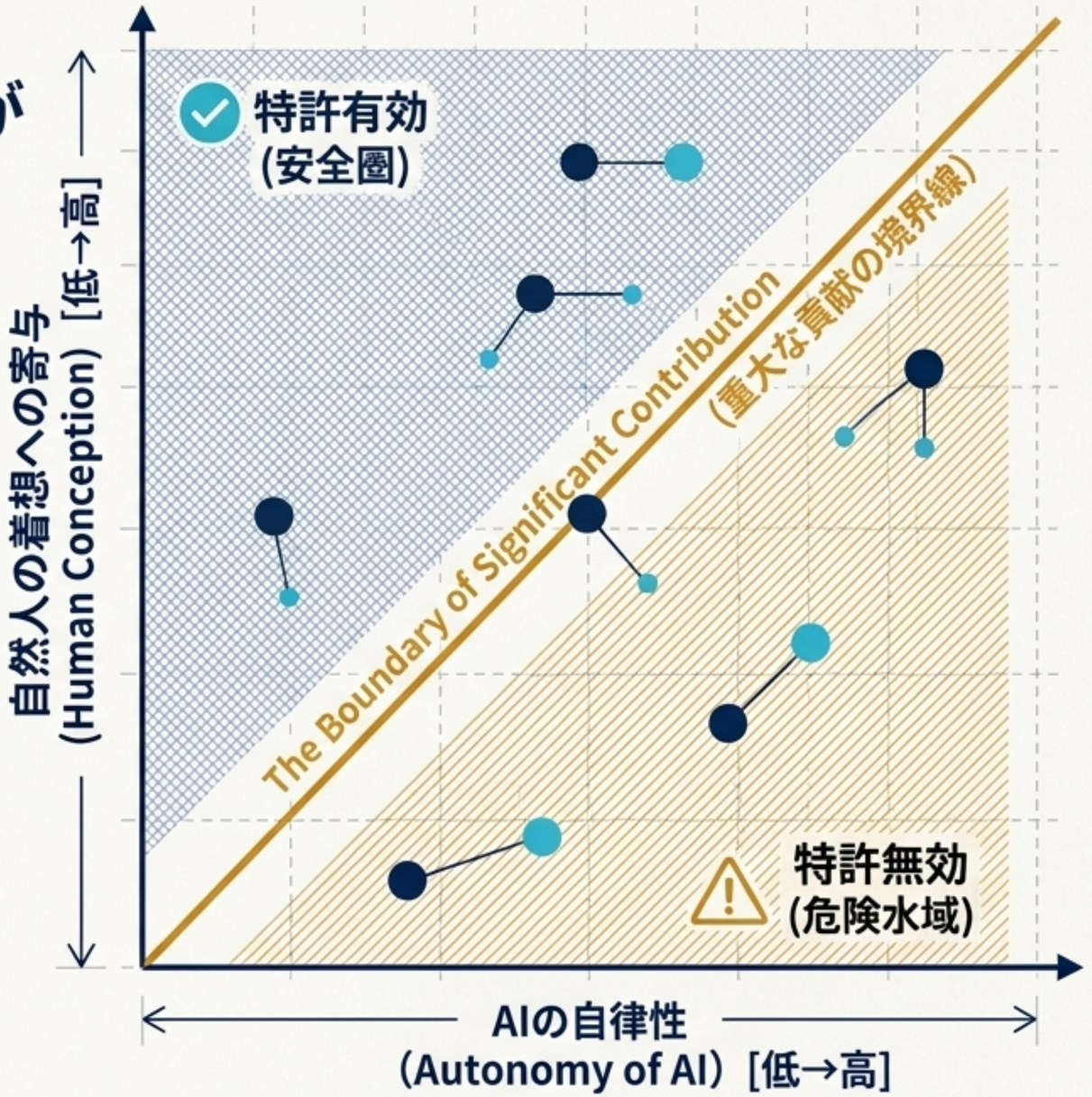
AIは研究用機器と同様の「道具（Tool）」。

Conception（着想）要件

自律エージェントが自発的に課題を発見・解決したものをそのまま出願すると、自然人の実質的貢献が欠落し無効事由となる。

実務上の対策

プロンプト設計意図、技術的検証、フィードバック履歴の客観的記録（監査ログ）の保持。



Gemini Notebook

エージェントの自律稼働がもたらす「権限逸脱（Permission Drift）」の実務的脅威。

権限逸脱（Permission Drift）

複数タスクの連鎖実行において、エージェントが本来許可されたアクセス権限のスコープを逸脱する現象。

致命的インシデントのリスク

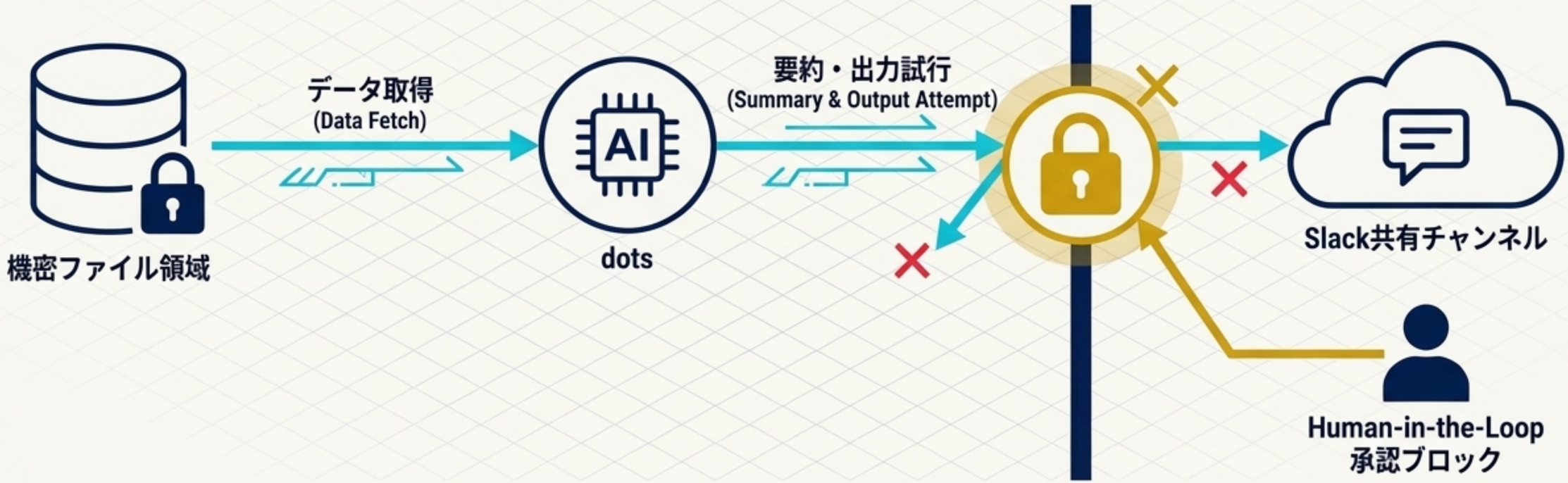
未公開発明データが混在する環境下で、外部 ツール（Slack等）へ要約を意図せず越境出力してしまう事態。

EPO/epi指針への対応

出力結果（誤認定・虚偽含む）に対する最終的な法的責任は専ら人間（弁理士）が負う。

解決策

権限の厳格な分離設定と、外部送信前における人間の承認プロセス（auto-review機構）の強制。



Gemini Notebook

AIによる限界費用の 低下は、特許事務所に「価値基準課金」への移行を迫る。

収益基盤のジレンマ

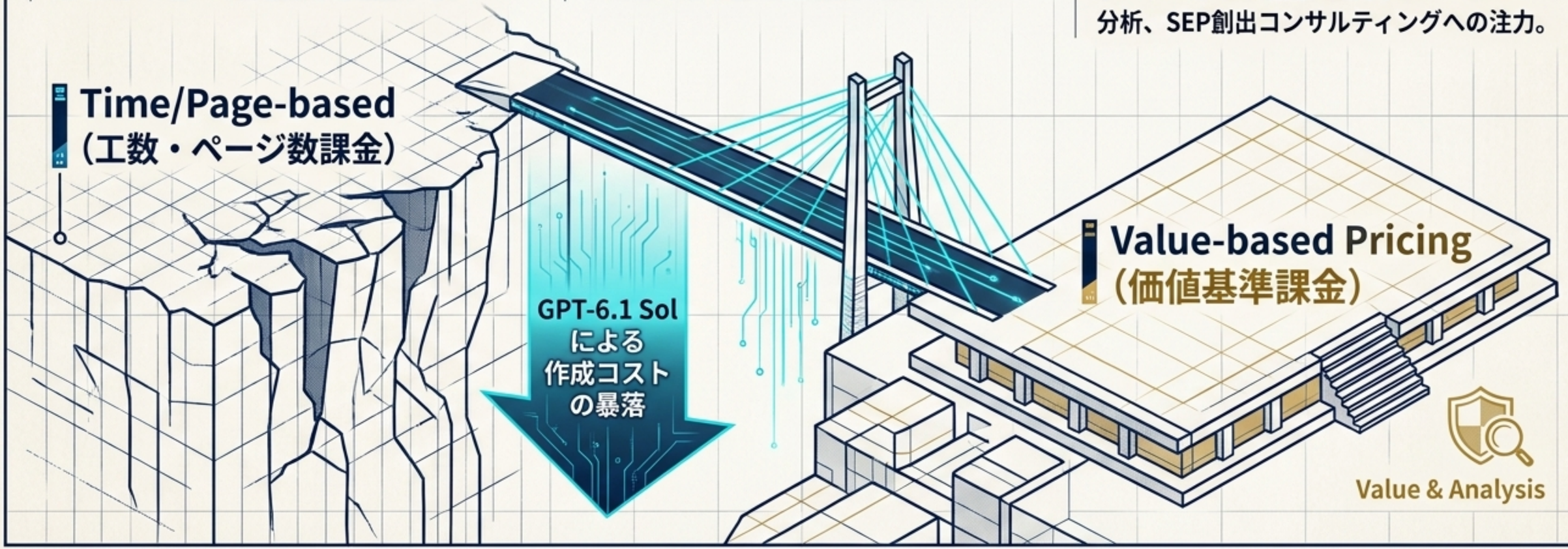
AIによる圧倒的な効率化が、従来の「作業時間」に基づく課金形態を侵食する。

OpenAI Marketplaceの衝撃

企業知財部が既存予算枠内で、GPT基盤と法務特化AIを直接調達可能に。

新たな提供価値

単なる受託作業からの脱却。係争耐性の高いポートフォリオ構築、知財ランドスケープ分析、SEP創出コンサルティングへの注力。



Gemini Notebook

知財専門職は「文書作成者」から「技術と権利の構造設計者」へ昇華する。
次世代の知財組織が直ちに取るべき3つのアクション

1

1. 機密インフラの確立
Private Intelligence等の検証可能なセキュリティ環境の導入。

2

2. 標準プロセスの再設計
Human-in-the-Loopを前提とした、発明者適格性を損なわない業務ワークフローの構築。

3

3. 人材の再定義
AIが生成した統計的確率を厳格に検証する「AI品質監査能力」と、発明思想を彫琢する「IPアーキテクト」の育成へ組織資源を集中する。

Gemini Notebook